

【テーマ7】

国立大学法人 三重大学

「外国人児童生徒への理解と指導力を育てる教員養成カリキュラムの検証と再構築」

調査の概要

調査1（全国調査）

◆課題認識

- 外国人児童生徒等への指導体制構築のため、教員養成課程を設置する大学において、外国人児童生徒等に対する指導・支援について学べる必要がある

◆調査研究の目的

- 対象：全国の教員養成課程を設置する大学
- 日本語指導が必要な外国人児童生徒等に関する授業の実施状況と取組事例の把握

◆調査研究の方法

- 質問紙調査（348校）
- 半構造化インタビュー調査（10校）

調査2（卒業生追跡調査）

◆課題認識

- 三重県内での日本語指導が必要な日本国籍を有する児童生徒の増加（平成30年度で353人）
- 三重大学教育学部における日本語教育に関するカリキュラムの検証が必要

◆調査研究の目的

- 外国人児童生徒への理解と指導力を育てるカリキュラムの再構築

◆調査研究の方法

- 卒業生追跡調査（アンケート、インタビュー）
- 対象：日本語教育コース（平成18～27年入学）修了後、学校教育に従事している卒業生43名

取組のポイント・成果

◆調査1の成果

- 教員養成課程における実施状況が把握できた。
- 特色ある取組事例として4大学（愛知教育大学、筑波大学、東洋大学、岐阜聖徳学園大学）の実施内容・方法を示した。

<実施状況（抜粋）>

「外国人児童生徒等の教育に関する授業」について

①課程認定を受けた科目

ある：37校 ない：114校

②課程認定を受けていない科目

ある：40校 ない：109校

③未実施の理由

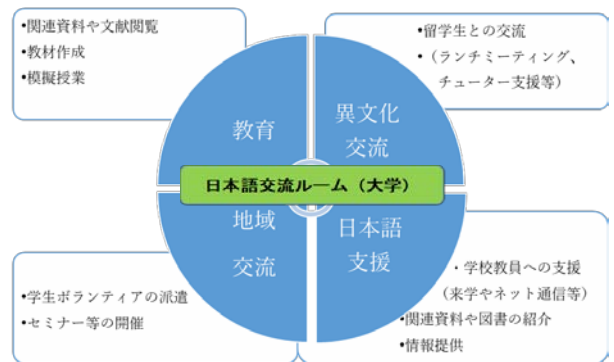
「指導者として適切な人材がない」（37校）

「カリキュラムの時間内でおさまりきらない」（36校）

◆調査2の成果

- 在学中に指導力を身につけるカリキュラム

- ①理論を踏まえた上で指導法・実習を学ぶ
- ②ボランティア等による外国人児童生徒、またその保護者との交流の場の提供
- ③開放的な日本語教育カリキュラムの提供



【今後の計画：「日本語交流ルーム」の開設】

今後の課題

◆調査1：より詳細な実態の把握

- 大学の規模、背景、地域の特徴、学内外における連携先の有無、FDとその方法等を含めた調査の実施

◆調査2：具体的な教育内容の検討

- カリキュラムの再構築、大学の日本語教育に関するリソースを活用した教育現場や地域との連携

※ 上記項目については一例であり、適宜変更してかまわない。

※ 別紙イー②については、文部科学省において公表する場合がある。